

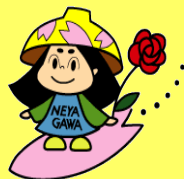
平成 29 年度第2回開催状況

開催日時：平成 29 年 11 月 18 日(土)

午前 9:30～午後 0 時 30 分

会 場：市立保健福祉センター5階 多目的ホール

参加人数：30 人



<第2回の概要>

第2回では、新たな参加者が加わったこともあり、参加者同士のコミュニケーションの活性化を図るため、バースデライン※による自己紹介を行いました。(※バースデラインとは、参加者がコミュニケーションをとらずに誕生日順に並び、その後、参加者が誕生日を発表して並びなおすことでコミュニケーションを活性化させる手法をいいます。)

その後、「地域で取り組む課題：何を誰とどう取り組む？」をテーマに、前回の意見交換の内容等の振り返りや、地域で取り組む課題について意見交換を行いました。各班で抽出した課題は下表のとおりです。

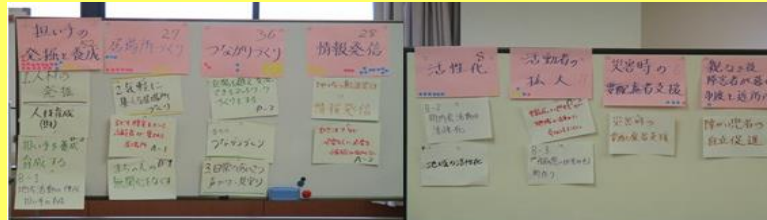
《各班で抽出した課題》 (各班3つ)

A 班	B 班	C 班	D 班	E 班	F 班
子ども、障害をもった人、高齢者が集まれる居場所	地域活動の後任担い手の育成	人材の発掘	まちの人の無関心をなくす	災害時の要配慮者支援	まちのつながりづくり
ひきこもりなど必要な人に必要な情報が伝わらない	町内会活動の活性化	気軽に集える居場所づくり	担い手を養成、育成する	地域の相談窓口の情報発信	人材(財)育成
幅広い世代が地域の活動に参加しにくい	住民の思いが生かせる町づくり	日常のあいさつ、声かけ、見守り	立場を越え、交流できるネットワークづくりをする	障害児、障害者の自立支援	地域の活性化

各班から「地域で取り組む課題」とした理由について発表し、上記 18 の課題をカテゴリ(ジャンル)別に集約しました。(右上)

<地域で取り組む課題>

- 1 担い手の発掘と養成
- 2 情報発信
- 3 活動者の拡大
- 4 災害時の要配慮者支援
- 5 親なき後、障害者が暮らせる制度と近所づきあい
- 6 つながりづくり
- 7 居場所づくり
- 8 活性化



以上、8つの課題について、全参加者が投票を行い、上位4つの課題について、今後、解決策を探っていくことを決定しました。

《今後取り組む4つの課題》

- 1 担い手の発掘と養成
- 2 つながりづくり
- 3 情報発信
- 4 居場所づくり



第2回は「私たちが取り組みたい課題」として、具体的な福祉に関する地域課題について話し合いました。いずれの課題も地域で取り組んでいくことが重要であり、今後、多様な関係者との協働が期待されます。

次回お会いするまでに身近な地域での話し合いの輪を広げられるといいですね。



ファシリテーター：所 めぐみ(関西大学 人間健康学部 人間健康学科 教授)

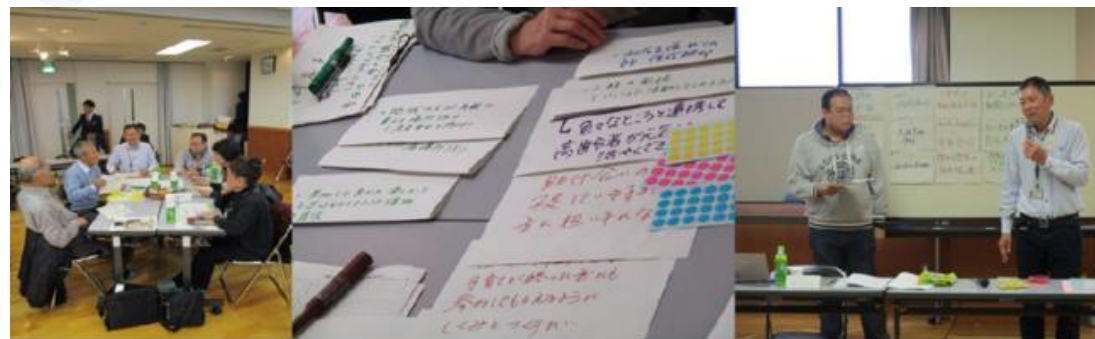
参加者一覧

A班	B班	C班	D班	E班	F班
○谷本 峻 (公募市民) ○古賀 裕子 (公募市民)(新規) ○杉本 敢 (神田校区地域協働協議会) ○東口 亜季子 (NPO法人芽ばえ) ○浅尾 和弘 (CSW) ○吉田 翔平 (市職員)	○丸山 和子 (公募市民) ○新倉 壽夫 (公募市民)(新規) ○佐藤 忍 (北校区地域協働協議会) ○谷口 豊基 (登録ボランティアグループ連絡会) ○堀 敏晴 (CSW) ○津熊 隆志 (市職員)	○川崎 容子 (三井校区地域協働協議会) ○佐藤 悦子 (寝屋川高齢者サポートセンター運営協議会) ○伊藤 さやか (CSW) ○奥村 祐 (市職員)	○中川 雄二 (公募市民) ○衣川 小夜子 (点野校区地域協働協議会) ○梶山 重憲 (CSW) ○岡 里依 (市職員)	○山田 清隆 (梅が丘校区地域協働協議会) ○奥村 勲 (寝屋川市障害者団体協議会) ○塚脇 崇之 (CSW) ○日高 由佳梨 (市職員)	○上砂 賢三 (公募市民) ○坂尻 八重子 (公募市民) ○戸田 正巳 (楠根校区地域協働協議会) ○山羽 克彦 (寝屋川市民生委員児童委員協議会) ○須磨 司 (CSW) ○橋本 祐希 (市職員)

・バースデラインの様子



・各班の発表の様子



福祉のまちづくりひろばの概要を御覧いただくには、検索画面で「寝屋川市 福祉のまちづくりひろば」と入力し、「検索」をクリックしてください。

キーワードを入力し検索ボタンを押してください

寝屋川市 福祉のまちづくりひろば

検索

問合せ先：

寝屋川市福祉部福祉総務課

TEL：072-824-1181(内線 3635)

E-mail：fukusi@city.neyagawa.osaka.jp